

皆さん、クリスマスおめでとうございます！今年も救い主イエス・キリストのお誕生を喜び祝うクリスマスの時とともに過ごせますこと感謝いたします。今日この礼拝に集われた方々、会堂でオンラインとともに礼拝をささげてられるお一人おひとりに、救い主イエスさまの祝福が豊かにありますように心からお祈りしています。

今朝はルカの福音書2章を読んでいただきました。これは救い主イエス・キリストのお誕生を記すみことばです。イエスさまがベツレヘムの馬小屋でお生まれになる。宿屋に居場所のなかったマリアとヨセフがイエスさまを布に包んで飼い葉桶に寝かせる。そんな出来事が今日の箇所には記されています。

神さまのご計画

救い主の誕生は、逆転の出来事の連続です。以前の礼拝でもそんなお話をしました。立派なお金持ちの家に生まれた女性ではなく、ナザレという町のどこにでもいるような少女マリアを通して救い主が生まれること。その前には老夫婦のザカリヤとエリサベツを通して、救い主の道備えをするヨハネが生まれる、という出来事もありました。クリスマスの出来事。そこには私たち人の価値観とは全く違うことがなされていた。神さまの前に、私たちの価値観が大逆転するような、そんな出来事がクリスマスを通して起こったと聖書は私たちに教えています。そしてこの逆転はイエスさまのお誕生においても起こっています。神の子であり神ご自身であるお方が、家畜小屋でお生まれになり、飼い葉桶に寝かせられる。それはクリスマスの出来事が示す最大の逆転です。イエスさまは王宮にお生まれになったのでも、フカフカの高級ベッドに寝かせられたのでもなかった。飼い葉桶に寝かせられた救い主。居場所がなく、とても赤ちゃんが生まれるような環境ではない場所にお生まれになったイエスさまのお姿を聖書は教えるのです。そしてこの逆転は、神さまがその背後にあって働いておられたことのしるしでもあります。イエスさまが貧しく居場所なく生まれる。そこに神さまの壮大なご計画が成就したことが、豊かに現されているということです。

今朝の御言葉、ルカの福音書2章の最初には、時の権力者たちの名前が出てきます。今日の2章1-2節。

そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。

ローマ帝国の皇帝アウグストゥス、シリアの総督キリニウス。どちらも歴史に名前を残している人物です。時の権力者の意向によってなされた住民登録。これは税金を取り立てるためになされたものであり、またイスラエルの地がローマに支配されていることを当時の人たちに決定的に知らしめるものでもありました。そしてその人口調査のためにベツレヘムへ行かなければならなくなったヨセフとマリアが、出かけた先で出産の時を迎える。なんととも弱く小さな存在であるヨセフとマリア、そして赤ちゃんのイエスさまのお姿であることを思います。

しかし聖書は、この時の権力者に翻弄され生まれてきた赤ちゃんこそが、真の王であられると。この世界の支配者であられる神なるお方だと教えるのです。このベツレヘムという町でイエスさまがお生まれになったことにも、大きな意味がありました。ベツレヘムはダビデの町と呼ばれています。これはダビデが生まれた町という意味です。救い主はダビデの子孫としてお生まれになると旧約聖書に予告されていました。さらにミカ書5章2節というところにはこうあります。

「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」

イエスさまがベツレヘムでお生まれになったこと。この時ヨセフとマリア夫妻がベツレヘムで出産を迎えることになったこと。そこには神さまの壮大なご計画がありました。権力者たちの意向や世の中の流れゆえにイエスさまはベツレヘムの地の、しかも馬小屋で生まれた。そのように見える出来事も、実は神さまの恵みの導きの中にもありました。時の権力者をも用いて神さまが救い主イエスさまをベツレヘムで生まれるようにしてくださった。全てのことの背後にあって働かれ、ご計画をなされる神さまの力を聖書は私たちに教えます。この神さまの壮大なご計画と恵みの御手のうちに私たちは生かされているのです。

居場所のない救い主

真の王、救い主なるイエスさまがベツレヘムで誕生される。そこには神さまの力ある導きとご計画が現されていました。そしてそのご計画は、イエスさまが貧しく居場所なくお生まれになったことにも表されています。6-7節。

ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

宿屋には彼らのいる場所がなかった。居場所のない救い主のお誕生を聖書は教えています。救い主に居場所がなかった。これはとても衝撃的なこと、驚きであると思います。神の子でありこの世界の王なるお方が、馬小屋でお生まれになった。救い主イエスさまのお誕生を喜んでお祝いする人も、イエスさまを迎え入れる場所もこの時なかった。これは御子イエスさまのへりくだり、私たちのため低くなってこの地にお生まれくださったイエスさまのお姿を示しています。へりくだり私たちと同じようになってくださった神の子イエスさまのお姿。それがクリスマスの出来事には現れているということです。そしてこのへりくだった神の子を通して、救いを成し遂げられる。それが神さまのご計画でした。今日の招きの言葉、ピリピ人への手紙2章6-8節にはこうありました。

キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

イエスさまのへりくだり。神さまのへりくだりをクリスマスの出来事は教えます。それもお生まれになった時だけへりくだられたのではありません。そのご生涯を通してへりくだり、十字架の死にまでも従われた。私たちのため人となり、低くなられ、十字架の死というところにまでへりくだってくださった。私たちの罪を背負い十字架で死んでくださった神の子イエスさまのお姿を聖書は私たちに教えるのです。

イエスさまが居場所なく、飼葉桶に寝かせられたこと。人となりへりくだって生きられたこと。そこにはどのような意味があったのでしょうか？救い主イエスさまのお誕生に示されている逆転の出来事。それは、このお方が私たちの寂しさや虚しさ、居場所のない思いをご存知のお方であるということ。私たちの暗く居場所のない心をイエスさまが知ってくださるお方であることを教えています。私たちが人生の中で感じる孤独や寂しさをイエスさまは知っておられる。人にはわかってもらえなくても、自分自身でもどうしてこんな辛いのか苦しいのかわからなかったとしても、イエスさまはわかっていてくださる。知っていてくださるということです。

救い主イエスさまのご生涯を予告した旧約聖書のみことばにこんな言葉があります。イザヤ書53:2-3。

彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。

彼すなわちイエスさまは「悲しみの人で、病を知っていた」そのように言われています。私たちの感じる痛みや孤独、悲しみや病をイエスさまは知っていてくださる。しかもただ知識として知っているだけではなく、それを味わってくださった。そのような御子のへりくだり、イエスさまの愛を聖書は教えるのです。それほどに救い主イエスさまは徹底的にへりくだり、私たちと同じ姿になってくださった。今日も私たちとともにおられる救い主イエスさまは、私たちのことをよく知っていてくださるお方だ。このお方の知らない痛みはないのだ、ということです。

そしてこのイエスさまは私たちのために「居場所」を与えてくださるお方でもあります。私たちのため、居場所のないお生まれくださったイエスさまは、私たちの居場所となってくださる。私たちが罪の現実、暗闇の支配から救い出し、真の平安を与えてくださる。それが救い主イエスさまです。このお方の元にはどんな人でも行くことができる。それが聖書の約束です。イエスさまはこうおっしゃいます。マタイの福音書11章28-30節。

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。疲れていない人、重荷を負っていない人、というのはこの世界にはほとんどいないでしょう。誰もが何かしらの悩みや重荷、疲れや苦しさ生きづらさを抱えている。そのように言えるでしょう。そんな私たちに、わたしの元に来なさいとイエスさまは言われるのです。わたしのもとに来なさい。イエスさまの元には居場所がある。イエスさまはどんな時も私たちを愛し赦し、受け入れてくださいます。私の居場所となってくださる救い主イエスさまの恵みを私たちは受け取り、このお方の元にある安らぎ、平安のうちに生きる者とされていきたいと思うのです。

私自身も、自分の人生を振り返る時、イエスさまという居場所に導かれたことがとても大きなことであったなと思わされます。私は小さい頃から教会に通っていましたが、中高生・大学生くらいの時にはイエスさまから心が離れて、自分勝手に生きていました。そのような時の私は、まさしくこの居場所を求めて彷徨っていた。そんな状態だったなと思います。人からの目や評価を気にし、人に受け入れられるために偽りの自分を私は演じていました。時に無

理をして人に合わせたり、本当の思いを隠したり嘘をついたり、そんな生き方をしていた。しかしありのままの私を愛し受け入れてくださるイエスさまの愛を改めて知った時、私の生き方、私の人生は変わったと思います。私が私のままでいい居場所。ありのままの私を愛し赦し受け入れてくださるイエスさまを知って、私は変えられました。今でもイエスさま以外のことに居場所を求めてしまい、人の言葉や態度に振り回されたり落ち込んだりすることもあります。依然として罪深く弱い自分の姿に愕然とすることもある。しかしこんなに小さく罪深い私を赦すために、イエスさまはこの地に生まれてくださった。このお方の愛と恵みは決して変わらない。そのことを思い出す時、私の心は本当の平安に満たされていきます。このイエスさまの元にしか、私の居場所はないのだと教えられる日々です。

私たちの居場所、あなたの居場所がイエスさまにはある。どんな時もどんな人もわたしのもとに来なさいと言ってくださる救い主イエスさま。このお方は私たちは信じこのイエスさまのもとにいつも帰って行くものでありたい。私たちのためお生まれくださったイエスさま。私のため十字架で命を捨ててくださったイエスさまを信じて、このお方とともに生きていく私たちとされたいと思います。

最後に、私たちに居場所を与えてくださるイエスさまは、逆に私たちを居場所として求めてもおられる、ということを感じたいと思います。黙示録3:20。

見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

救い主イエスさまは、私たちの心の戸をたたいておられます。私があなたが心の扉を開いてご自身を受け入れるのを、イエスさまは待っておられる。だれでも戸を開けるなら、イエスさまがその心に住んでくださる。そのような恵みを聖書は教えています。居場所のないところにお生まれになった救い主。私たちの居場所となってください。イエスさまは今日、私たちのうちに住んでくださいます。私たちのうちに住みたいと、あなたが心を開くのを願い待っていてくださる。このお方を受け入れるのに特別な知識や経験、資格は何も必要ありません。全ての人がイエスさまの愛のもとに招かれます。どんな人もイエスさまとともに生きる恵みを受けることができます。イエスさまを心に受け入れ、このお方を信じて生きる歩みに、この礼拝に連なる全ての人が導かれることを私は心から願っています。私のためあなたのためにお生まれくださったイエスさまを心に受け入れて、歩んでまいりましょう。

お祈りをいたします。

「天の父なる神さま。クリスマスの礼拝を今日愛する皆さまとともにおさげできます恵みに感謝いたします。イエスさまが私たちのため、居場所のない救い主としてこの地に生まれてくださったこと。今も生きて私たちの居場所となり、私たちに真の平安と喜びを与えてくださるお方であることを覚え心から感謝いたします。救い主イエスさまを心に受け入れ、このお方とともに生きていく私たち一人ひとりとどうぞならせてください。この礼拝に連なる一人ひとりに、救い主イエスさまの恵みと平安が豊かにありますように。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」